

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
1	パブコメ	—	東京都の新築住宅へソーラーパネルの義務化を本市も採用して頂きたい。本市野村グランドに新築された家屋には殆どパネルが無いのは残念。自宅は古く瓦葺であるため耐震性が心配でパネルはつけられない。	無	—	—	—	43頁において、市内における新築のZEB・ZEH化100%を目指す旨を記載しており、住宅への太陽光発電設備の普及は重要であると考えております。引き続き太陽光発電設備の普及に努めて参りたいと思っております。
2	パブコメ	—	省エネ診断は非常に有効である。市内の幼稚園で省エネルギー診断を実施してもらった例を知っている。その例では「10年経過したエアコンを取り換え、県の補助金を使うと効果がある。」「10年経過したソーラーパネルはFITではなく自家消費に切り替えると効果がある。」といった具体的なアドバイスをもらっている。	無	—	—	—	省エネ行動に取り組む上での課題の一つとして、情報不足が挙げられていることから、具体的な省エネ行動の明示につながる省エネ診断についても、情報を発信し実施を促して参りたいと思っております。
3	パブコメ	—	本市にはやちよ自然エネルギー市民協議会と（一社）やちよ未来エネルギーの強力なゼロカーボン推進団体があるので、自治体ももっと協力して地域脱炭素を推進して頂きたい。	無	—	—	—	ゼロカーボンシティの達成は一部の主体の取組だけでは困難であると考えており、37頁において、市民（団体）・事業者・市の連携をうたっております。引き続き関係団体と連携し脱炭素社会を目指して参りたいと考えております。
4	パブコメ	—	ソーラーシェアリングを作る際の制約が多過ぎる。もっと作り易く制約を緩和して頂きたい。	無	—	—	—	ソーラーシェアリングに取り組むに当たっては、発電事業を行う間、太陽光パネルの下部の農地で適切に営農を継続する必要があるため、ある程度の制約はやむを得ないものと考えますが、44頁において、ソーラーシェアリングも含む多様な手法による太陽光発電の普及をうたっていることから、ソーラーシェアリングの普及についても推進して参りたいと思っております。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
5	パブコメ	—	公共施設は率先してZEB化を推進して頂きたい。	無	—	—	—	本市の新庁舎については、ZEB Readyを予定しており、43頁において、今後の公共施設の新設・改修時におけるZEB化の推進をうたっております。本ロードマップに基づき、公共施設のZEB化を推進して参りたいと考えております。
6	パブコメ	—	CO2の排出について日本の対応が悪いとして化石賞が受賞されたが馬鹿馬鹿しい茶番劇である。悪者とされているCO2が無ければ生物は死んでしまうし、化石燃料は利便性が高く人類を豊かにしてきた。世界経済フォーラムでは温暖化していないことがバテて気候変動と言うようになり、最近水田や農業は環境破壊だと言って外国では笑いものにされている。 外国の話だが温度センサー設置場所が詐欺的である。温暖化のデータは寒かった頃のデータを省いたものである。 脱炭素から再エネへという話だが、太陽光パネル推進の都知事と結託していた業者は詐欺罪で捕まっているし、大阪では維新が中国共産党傘下の上海電力の太陽光パネルを推している。中国は水源地や自衛隊の周辺を買い占めており安易に太陽光パネルを推進すると中国製が多いので何をされるか怖い。 太陽光パネルは壊れると危険で素人は触れず、汚染物質を垂れ流すので稲作が出来ない地域もある。 風力発電でも利権で逮捕された議員がいるし、低周波健康被害や魚の大量死なども報告されている。 EV車は説明書を見ると発火・爆発・汚染物質の放出により消防車の対応すら難しいのでは無いかと思う程である。 このように偽善に満ち特定の者を儲けさせる脱炭素・環境原理主義、CO2をこの地域だけは削減したいというCO2移動ビジネスは意味をなさない。ロードマップや基本方針は根底から違う気がする。八千代市としてやるしかないのであれば、健康被害や汚染の無いものを再考するか、縮小してしまうかした方がよい。	無	—	—	—	貴重なご意見として参考にさせていただきます。
7	パブコメ	1. ロードマップの概要 1.1ロードマップの目的と位置づけ	図には国の指針・法律・条例等が記載されていないが、本内容は八千代市独自で作成をした内容なのか。国や県等の内容をベースにして作成をしたのならばその旨も記載をして欲しい。	無	1	—	—	本ロードマップは国や県の目標なども考慮し作成しております。図では見やすさを考慮し市の計画を取り上げて作成しております。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
8	パブコメ	1.3 脱炭素目標のについて	長期目標として「2050年二酸化炭素排出量実質ゼロの実現」と記載されているが、この西暦は八千代市が独自に決めた目標なのか。それとも国や県の指針で決めましたのか。分かり易く記載をして欲しい。	無	2	—	—	八千代市独自ではありません。国においても2050年に温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする脱炭素社会の実現を目指すことを宣言しています。
9	パブコメ	図 八千代市と全国におけるエネルギー起源温室効果ガス排出量の部門別割合（令和2年度（2020年度））	八千代市と全国におけるエネルギー起源温室効果ガス排出量の部門別割合（令和2年度（2020年度））について排出量に占める家庭部門16.2%と世帯数91,994数より、1,350千トンから1世帯あたりは、 $(1,350 \times 0.162) \div 91,994 = 2.38 \text{ t}$ （年間）上記を市民一人あたりに換算すると $(1,350 \times 0.162) \div \text{人口数} = \text{〇〇〇 t}$ この〇〇〇は、全国レベルと比較すると高いか低いかわかりにくいかを広く市民にアナウンスして啓蒙活動に役立てる必要があると考える。記載をして欲しい。	無	14	—	—	貴重なご意見として参考とさせていただきます。
10	パブコメ	③再生可能エネルギーの普及推進について	現状は太陽光発電設備であるが、将来的には事業者を募って耕作放棄地等を活用してバイオマス発電設備を導入する考え方はあるか。	無	44	—	—	バイオマス発電の導入について現時点で具体的な構想があるわけではありませんが、将来的に実施する可能性は排除していません。
11	パブコメ	図 産業部門からの温室効果ガス排出傾向と製造品出荷額等の関係	Y軸の単位が万円となっており、この意味を教えてください。その理由は、八千代市に進出している産業部門の製品出荷高は3億円未満ということか。	有	16	※16頁グラフ修正 Y軸単位を“万円”から“千万円”へ	—	当該グラフのY軸の単位については、“千万円”に訂正させていただきました。したがって、当該グラフのY軸最大値は3千5百億円となります。
12	パブコメ	—	令和6年度以降に家庭で太陽光発電設備や蓄電池設備を導入した場合、補助金等の対象となるか。	無	—	—	—	パブコメの意見として取り扱えない為回答は控えさせていただきます。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
13	パブコメ	—	将来的に水素ステーションを道の駅等に導入するために事業者等を募る考えはあるか。	無	—	—	—	パブコメの意見として取り扱えない為回答は控えさせていただきます。
14	パブコメ	—	清掃センターで水力発電を利用して敷地内の防犯灯に活用していたが、現在は止めたのか。継続中ならば水力発電設備もありその旨も記載した方が望ましいと考える。	無	—	—	—	貴重なご意見として参考とさせていただきます。
15	パブコメ	—	用語集を巻末等入れて欲しい。 ・ P26 に記載されているPPA、4Rを構成している各々の意味 ・ P37 に記載されている技術イノベーション、CO2C02 スマート宣言事業所登録制度 ・ P42 に記載されている ZEB、ZEB・ZEH、ZEBReady ・ P45 に記載されている AI・ICT ・ P47 に記載されている GDP・SBT、RE100、SHIFT 事業、ASSET 事業	有	53 ～ 56	用語集への用語の追加	—	ご指摘の用語につきましては、用語集を作成して対応して参ります。
16	パブコメ	—	まず全体を見ての感想はこの緩いやり方では到底目標は達成できないということ。その他、サービス部門や家庭部門の大幅な削減目標とうたう割にはその本気度が見られない。	無	—	—	—	目標達成に向け、各種施策の推進に努めて参りたいと考えます。
17	パブコメ	—	毎回環境のパブコメで多岐にわたり色々な目標などを掲げるが、手広くやりすぎてはたしてどのくらい実効性があるのか疑問。太陽光にしようしたいのならもう少し他は控えめに書くべきでは。あれもこれも理想や目標を掲げることは大切だが、全てやろうとしたり欲張りすぎたりするともはや環境保全課環境政策室や市民ボランティアだけの話では到底まわらない絵にかいた餅状態になるのではないかと。もう少しまとを絞るべき。	無	—	—	—	脱炭素社会の実現のためには、様々な施策を同時に推進していく必要があります。ご指摘の通り市の担当課でできることには限りがあることから、様々な関係者と連携し、脱炭素を推進して参りたいと考えます。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
18	パブコメ	—	ソーラーカーポートの普及もいいが、何年でペイするのかなどの計算は度外視か。カーポートの場合柱に車がぶっかり損傷した場合、その修理費やその期間の発電などがとまる可能性があり採算度外視に近い考えでやる覚悟は必要。台所を新調して元を取ろうとする人はいない。それと同じ考えで再生可能エネルギーが増えるならインフラの一つとして元をとる計算はしないという考えの元やるべき。	無	—	—	—	脱炭素を推進していくにあたっては、PPA等初期投資不要の事業もあることから、様々な事業手段を考慮して進めたいと考えます。
19	パブコメ	—	カーボンオフセット計算はどのようになっているのか。	無	—	—	—	カーボン・オフセットとは、日常生活や経済活動において避けることができないCO2等の温室効果ガスの排出について、まずできるだけ排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方であることから、まずは排出削減に努めたいと考えます。
20	パブコメ	—	牛のゲップについてふれられていない。酪農業が多い八千代市では牛のゲップに含まれるメタンはCO2の25倍もの温室効果があると言われている。 大学の研究によると、カギケノリと呼ばれる海藻を小さく切り刻み、牛に与える餌の0.2%分を混ぜることで、ゲップによるメタン排出量を85%カットできるという。 また牛の飼料にカシューナッツ殻液を混合することでげっぷの発生源となる第一胃に働きかけ、メタン発生を約20~40%も抑制する効果があるといい、このカシューナッツ殻液を使った家畜用の機能性飼料「ルミナツ」を開発・販売を出光興産株式会社が販売している。これらの飼料の導入補助費を酪農家につけてみてはどうか。 効果測定が難しいが、サンプリングで牛何頭かからげっぷ内のメタンガス濃度を調査することにより、八千代市内でのメタンガス削減量がある程度推測できるかと思う。 八千代市内のすべての牛のゲップやおならのメタンガスが抑制されたらかなりの効果はあり、この分のカーボンオフセットの取引分はばかにできないと思う。	無	—	—	—	メタンはIPCCの第5次評価報告書によると、その地球温暖化への寄与は同じ量の二酸化炭素の28倍になるとされていますが、温室効果ガス総排出量に占めるガス別排出量は、二酸化炭素が圧倒的に多いことから、まずは二酸化炭素の排出削減を中心に施策を推進していきたいと考えます。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応			備考	
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）			意見への対応 （修正無の場合はその理由）
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
21	パブコメ	1.1. ロードマップの目的と位置づけ	1.1. ロードマップの目的と位置づけ 図の中で、八千代市地域脱炭素ロードマップから3つの項目を通じて、ゼロカーボンシティの実現を目指すとしているが、「市民・事業者の行動変容」ではなく、「行政・市民・事業者が連携した社会システムの変革」が必要である。「省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入」によりゼロカーボンシティの実現を目指すには、これらのレベルを相当高める必要があり、「ネット・ゼロ・エネルギー化および再生可能エネルギー100%」を実行する必要がある。そして「革新的技術の早期実装」を期待するのではなく、未来の地域ビジョンを明確に掲げて既存技術の早期普及を強力に進める必要がある。	有	1	市民・事業者の行動変容 ライフスタイル・社会システムの変革 省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入 地域全体への既存技術の普及 革新的技術の早期実装	—	こちらにつきましては、ご指摘内容を参考にするとともに、後述の内容との整合を踏まえ、見直しを行いました。
22	パブコメ	策定の背景 2.1. 地球温暖化について 2.1地球温暖化について	策定の背景 2.1. 地球温暖化について 2.1地球温暖化について 地球温暖化についての一般的な内容の説明ではなく、気候危機と呼ばれるような地球温暖化による世界レベルの危機的な状況をきちんと伝えるべきである。 参考：IPCC第6次評価報告書 https://www.jccca.org/global-warming/trend-world/ipcc6-wg1	有	3	つまり、IPCC第6次評価報告書によると、人間活動が大気・海洋及び陸域を温暖化させてきたことには疑う余地がないとされており、石油や石炭など化石燃料の燃焼などによって排出される二酸化炭素が最大の温暖化の原因と言えます。また、気候システム全般にわたる最近の変化の規模と、気候システムの側面の現在の状況は、何世紀も何千年もの間、前例のなかったものとされています。	—	ご指摘を踏まえ、当該箇所につきましては記載内容の見直しを行いました。
23	パブコメ	策定の背景 2.2温暖化の状況	策定の背景 2.2温暖化の状況 世界の平均気温上昇を1.5℃に抑えるには、どの程度の温室効果ガスの削減が必要かわかる「カーボンバジェット」に関する記述も必要。	有	6	このため、IPCC第6次評価報告書では、地球温暖化による気温上昇を1.5℃に抑制するための残りのCO2排出量上限はあと4000億トンであることが示されており、気温上昇があるレベルで止めるためには、CO2累積排出量を制限し、少なくとも正味ゼロ排出を達成し、他の温室効果ガスも大幅に削減する必要があります。このため、気温上昇を約1.5℃に抑えるためには、令和12年(2030年)までに平成22年(2010年)比で世界全体のCO2排出量を約45%削減することが必要とされています。おり、この実現に向けて、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げ取組を進めています。 ※同ページの図も差し替え	—	ご指摘を踏まえ、2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動きの2.4.1世界における動向の記述を見直し、図の差替えも行いました。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
24	パブコメ	2.3. IPCC による気候変動シナリオ	2.3. IPCC による気候変動シナリオ ここでは、1.5℃を達成するには、どのようなシナリオが必要かを説明する必要がある。 参考：IPCC第6次評価報告書 https://www.jccca.org/global-warming/trend-world/ipcc6-wg3	有	5	温暖化の進行を受け、IPCCは、 <u>下図に示す5つのシナリオに基づく世界平均気温の変化を図のとおり提示し、温暖化対策への取組が急務であることを呼びかけています。</u> ※「IPCC第6次評価報告書におけるSSPシナリオとは」の拡大	—	ご指摘を踏まえ、シナリオについて下図への誘導の記載を加えるとともに、図を見やすくするために拡大いたしました。
25	パブコメ	2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動き 2.4.1. 世界における動向	2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動き 2.4.1. 世界における動向 少なくとも第6次評価報告書、できれば最新のCOP28で発表された資料(排出量のグラフ)を使って欲しい。 世界の気温上昇を1.5℃未満に抑えるには、日本を含めて現状の各国の目標(NDC)では不十分であり、2050年のカーボンニュートラルを実現するために、2030年までの早期削減が重要であることが分かるグラフにする。	有	6	<u>このため、IPCC第6次評価報告書では、地球温暖化による気温上昇を1.5℃に抑制するための残りのCO2排出量上限はあと4000億トンであることが示されており、気温上昇をあるレベルで止めるためには、CO2累積排出量を制限し、少なくとも正味ゼロ排出を達成し、他の温室効果ガスも大幅に削減する必要があります。</u> <u>このためそして、気温上昇を約1.5℃に抑えるためには、令和12年(2030年)までに平成22年(2010年)比で世界全体のCO2排出量を約45%削減することが必要とされています。おり、この実現に向けて、120以上の国と地域が「2050年カーボンニュートラル」という目標を掲げ取組を進めています。</u> ※同ページの図も差し替え	—	ご指摘を踏まえ、2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動きの2.4.1世界における動向の記述を見直し、図の差替えも行いました。
26	パブコメ	2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動き 2.4.2国における動向	2.4脱炭素に向けた世界・国・県の動き 2.4.2国における動向 国の温暖化対策実行計画に基づく、省エネルギーや再生可能エネルギーの目標についても言及出来ると良いと思う。エネルギー関連については、2021年10月に閣議決定された第6次エネルギー基本計画で2030年度の目標が明記されている。 参考：第6次エネルギー基本計画 https://www.meti.go.jp/press/2021/10/20211022005/20211022005.html	有	8	<u>また、令和3年(2021年)に策定されたエネルギー基本計画では、令和12年(2030年度)において、省エネルギー目標値として約3.7倍(令和元年(2019年度)比)、再生可能エネルギー導入見込量として太陽光を2.1倍(令和元年(2019年度)比)にするとしています。</u> 図 パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略概要を削除 図 地球温暖化対策計画における温室効果ガス排出量の目標を拡大	—	ご指摘を踏まえ、当該箇所につきまして省エネの目標値等を記載しました。また、図の削除や拡大を行ってページ内のレイアウトを整えました。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
27	パブコメ	3. 現状と課題 3. 2. 1八千代市の温室効果ガス排出状況	3. 現状と課題 3. 2. 1八千代市の温室効果ガス排出状況 温室効果ガス排出状況には、環境省の自治体排出量カルテを用いているが、幾つかの問題がある。まず、現状では2020年度（令和2年度）までの情報しか掲載されていない。	無	14	—	—	本市における温室効果ガス排出量については、独自での算出を行っていない為、環境省が公表している自治体排出量カルテのデータを使用しています。
28	パブコメ	3. 現状と課題 3. 2. 3事業者の状況	3. 現状と課題 3. 2. 3事業者の状況 産業部門のCO2排出量については、千葉県全体を市町村で按分しているため、過大となっている可能性がある。産業部門のCO2排出量は、各事業者からの排出量の開示など、別の方法でボトムアップ方式で集計を進めて、CO2削減対策を強化していく必要がある。	無	16	—	—	貴重なご意見として参考とさせていただきます。
29	パブコメ	3. 現状と課題 3. 2. 4. 運輸部門（自動車、鉄道）	3. 現状と課題 3. 2. 4. 運輸部門（自動車、鉄道） 自動車などによるCO2排出量は、把握が難しいが、自治体排出量カルテ以外の排出量の把握方法を検討する必要がある（特に2020年度以降）。	無	17	—	—	貴重なご意見として参考とさせていただきます。
30	パブコメ	3. 現状と課題 3. 3. 市役所（事務事業）の状況	3. 現状と課題 3. 3. 市役所（事務事業）の状況 地球温暖化対策実行計画（事務事業編）が、別途検討されているが、事務事業編についてもパブコメを実施すべきである。現状では、市庁舎など公共施設から排出されるCO2の削減はあまり進んでいない。	無	19	—	—	全ての施策等を対象とすることは、行政の効率性の観点から問題があるため、行政内部に適用されるものはパブリックコメントの対象外となっております。事務事業編は行政内部に適用されることからパブリックコメントの対象とはしていません。
31	パブコメ	3. 現状と課題 3. 4. 1再生可能エネルギーの導入状況	3. 現状と課題 3. 4. 1再生可能エネルギーの導入状況 これまで再生可能エネルギー導入の主要な支援制度だったFIT制度が、今後減る見込みであり、FIT以外の制度で導入される自家消費型の太陽光発電の導入状況については、把握をする必要がある。特に八千代市では、太陽光発電に関する補助制度がほとんど無いため、把握が困難になっている。国や千葉県、そして事業者と連携して再生可能エネルギーの導入状況を把握する必要がある。	無	20	—	—	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
32	パブコメ	3. 現状と課題 3.4.2再生可能エネルギーの導入 ポテンシャル	3. 現状と課題 3.4.2再生可能エネルギーの導入ポテンシャル 環境省の再生可能エネルギー導入ポテンシャル 調査の結果だけを参照するのではなく、独自に 地図は航空写真などを使った建築物への導入ポ テンシャルなどの調査を、詳細に実施すべきで ある。エネルギー消費量については、電気だけ ではなく、熱（連暖房、給湯）や運輸（自動車、 トラックなど）もあり、それらも見据えた省エ ネルギーや再生可能エネルギーの導入ポテン シャルを把握する必要がある。	無	21	—	—	貴重なご意見として参考とさせて いただきます。
33	パブコメ	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に 向けた課題	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 施策の方向性は良いと思うが、施策の整合性や 方向性を、2030年度までの地球温暖化対策実行 計画（区域施策編）と合わせる必要がある。例え ば、「各部門における大幅な削減に向けて、排 出特性を踏まえた市民・事業者・市による協働 での取組を推進することとし、既存の技術の積 極的な導入を図る」は、具体的なアクションプ ランまで策定できれば、重要な施策になると思 う。	無	24 ～ 26	—	—	貴重なご意見として参考とさせて いただきます。
34	パブコメ	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に 向けた課題	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 意識・行動については、施策の方向性が「情報 提供」や「行動変容」だけではまったく不十 分。より積極的な施策が求められる。	無	25	—	—	計画の推進にあたってご意見を参 考とさせていただきたいと考えま す。
35	パブコメ	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に 向けた課題	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 再エネ導入については、具体的なエリア別、セ クター別（家庭、業務、産業、公共など）の太陽 光発電の導入ポテンシャルを把握して、再エネ 100%へ向けた導入目標を定め、具体的な支援制 度を構築する必要がある。再エネの促進区域に より、ゾーニングを行い、事業者とも連携して 施策を進める必要がある。	無	25	—	—	計画の推進にあたってご意見を参 考とさせていただきたいと考えま す。
36	パブコメ	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に 向けた課題	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 地域特性・まちづくりについては、公共交通機 関（バスなどの電動化など）のインフラ整備と共 に、電気自動車の普及のためのインフラ（充電 など）整備を進める必要がある。さらに、ZEHや ZEBの導入を、設計段階から積極的に支援する 必要ある。	無	26	—	—	計画の推進にあたってご意見を参 考とさせていただきたいと考えま す。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
37	パブコメ	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題	3. 現状と課題 3.6ゼロカーボンシティの実現に向けた課題 市役所の取組については、市庁舎の建替え等、公共施設の更新の際に、ZEB化や太陽光発電100%(年間需要に対して)の導入を義務化し、既存の公共施設についても目標を定めて、出来るだけ、導入のための検討を行う必要がある。	無	26	—	—	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。
38	パブコメ	4. ゼロカーボンシティの実現に向けて 4.1将来ビジョン	4. ゼロカーボンシティの実現に向けて 4.1将来ビジョン 多くの市民や事業者と共に、この将来ビジョンを策定して共有するプロセスが重要。	無	27	—	—	ここにはゼロカーボンシティを実現した八千代市のイメージを掲載する予定です。策定後HP等で公表しイメージを共有していきたいと考えます。
39	パブコメ	4. ゼロカーボンシティの実現に向けて 4.2基本的な考え方	4. ゼロカーボンシティの実現に向けて 4.2基本的な考え方 環境の将来像や理念について、「ひと」「まち」「みらい」の3つのキーワードで整理しているが、それぞれ最初に述べたように、「ひと」は「市民・事業者の行動変容」ではなく、「行政・市民・事業者が連携した社会システムの変革」が必要である。「まち」の「地域ができること」として「省エネルギーの推進・再生可能エネルギーの導入」によりゼロカーボンシティの実現を目指すには、これらのレベルを相当高める必要がある。「ネット・ゼロ・エネルギー化および再生可能エネルギー100%」を実行する必要がある。そして「みらい」では「新しい技術の活用・創出」による「革新的技術の早期実装」を期待するのではなく、上記の将来ビジョンを明確に掲げて既存技術の早期普及を未来に向けて強力に進める必要がある。	無	28	—	—	貴重なご意見として参考とさせていただきます。
40	パブコメ	5. ロードマップ 5.2 再生可能エネルギーの導入目標	5. ロードマップ 5.2 再生可能エネルギーの導入目標 「区域の再生可能エネルギーの導入容量」の2030年度の目標値が初めて55.2MWと定められることは意義があるが、その導入目標値は不十分である。世界全体では、2023年12月にドバイで開催されたCOP28において、2030年までに再エネの発電設備容量を現状の3倍にすることが合意された。八千代市においても、現状の30MWの3倍である90MWの導入量を少なくとも目標とすべきである。 さらに、2050年度に向けて、107.8MWの目標では、2030年の目標のレベルであり、熱や運輸を含めたエネルギー需要全体を賄う再生可能エネルギーの導入を目指すべきである。	無	31	—	—	区域の再生可能エネルギーの導入容量の目標値は国の目標値を参考に定めております。2050年度の目標も定めておりますが、まずは2030年度の目標の達成に努めて参りたいと考えます。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
41	パブコメ	5. ロードマップ 5.4脱炭素シナリオ	5. ロードマップ 5.4脱炭素シナリオ ロードマップと共に、再生可能エネルギー100%となるための具体的な再エネ導入シナリオを描く必要がある。区域の再生可能エネルギーで足りない場合は、区域外からの調達や、太陽光発電以外の再生可能エネルギーの推進を、区域外の事業者や自治体とも連携して進める必要がある。	無	33	—	—	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。
42	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.1 ひと～ライフスタイル・社会システムの変革	5. ロードマップ 5.6.1 ひと～ライフスタイル・社会システムの変革 脱炭素型ライフスタイルへの行動変容については、国キャンペーンや、情報発信、環境学習・教育、ポイント制度など様々な手法が必要になるが、具体的な施策として実施するには、市民・事業者との協働が重要。そのための、社会システムの見直し(変革)については、行政による率先行動が重要であり、事業者と共に建築物や交通機関の見直しを行っていく必要がある。	無	37	—	—	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。
43	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.1 ひと～ライフスタイル・社会システムの変革	5. ロードマップ 5.6.1 ひと～ライフスタイル・社会システムの変革 市民(団体)・事業者・市の連携は、とても重要である。連携のための場(協議会や市民会議など)、協働ネットワーク、事業者との連携協定など、このロードマップや、温暖化対策実行計画を推進をするさいに、実効的な連携の体制を構築する必要がある。	無	37	—	—	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。
44	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ これらの取組をアクションプランとして、具体的に実施するための体制、予算、施策などを整備していく必要がある。	無	40 ～ 49	—	—	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。
45	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 省エネルギーについては、セクター別(家庭、業務、産業、運輸、公共、廃棄物など)に具体的な数値目標(2030年エネルギー消費量半減など)で、費用対効果の高い、効率的な手法でのエネルギー消費量の削減をする必要がある。	無	41	—	—	計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。
46	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 家庭と業務部門において、市内の新築のZEBやZEH化100%を目指すことは重要だが、さらに既存住宅に対する省エネルギーや再エネ導入も同時に進める必要がある。	無	43	—	—	現在、住宅用省エネ設備等導入に関する補助金で窓の断熱化や蓄電池の導入などを支援しています。計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
47	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存 技術の普及～	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 再生可能エネルギーについては、公共施設での 率先導入は100%を目指した上で、市民や事業者 についても、単なる情報発信だけではなく、数 値的な目標やインセンティブを伴う施策を、他 の自治体の事例なども参考にしつつ実行してい く必要がある。	無	44	—	—	計画の推進にあたってご意見を参 考とさせていただきたいと考えま す。
48	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存 技術の普及～	5. ロードマップ 5.6.2まち ～地域全体への既存技術の普及～ 再生可能エネルギーの普及推進については、 2050年に再生可能エネルギー100%を、総エネル ギー需要に対して達成できるようなロードマッ プを描いていく必要がある。より詳細な導入ポ テンシャルの調査や導入計画の策定、地域での 再生可能エネルギー事業の推進や地域新電力な どによる再エネ由来電力の調達が求められる。 地域での経済効果なども踏まえた、再生可能エ ネルギーのためのインフラ支援の財政措置や、 民間事業者と連携したPPAなどのビジネスモデ ルを積極的に活用していく。再生可能エネル ギー（太陽光発電など）の導入には、再エネ促進 区域や届出制度などにより、環境への配慮や合 意形成のプロセスも必要である。	無	44	—	—	市は東京ガス・大多喜ガスと昨年 度カーボンニュートラルシティ実 現に向けた包括連携協定を締結し ていますが、その協定の取組の中 でPPAの可能性調査を実施してい ます。 計画の推進にあたってご意見を参 考とさせていただきたいと考えま す。
49	パブコメ	5. ロードマップ 5.6.3みらい	5. ロードマップ 5.6.3みらい 水素エネルギーやカーボンリサイクルについ ては、エネルギー事業のインフラ整備や大企業に よる付加的な取組の中で進めるべきであり、地 域の脱炭素化としては再生可能エネルギーや省 エネルギーの推進を優先すべきである。	無	50 ～ 52	—	—	計画の推進にあたってご意見を参 考とさせていただきたいと考えま す。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
50	パブコメ	—	<p>昨年7/27、国連のグテーレス事務総長が地球温暖化、気候変動の現状について世界に向けて発言した。</p> <p>「人類は窮地に立たされている。今年の7月が人類史上最も暑い月に、海水温も過去最高となった。地球温暖化の時代は終わった。地球沸騰化の時代が到来した。」「リーダーたちは先頭に立たなければならない。言い訳は無用。もはや誰かが動くのを待つ時間はない。地球の気温上昇を1.5℃に抑え、気候変動による最悪の事態を回避することはまだ可能。しかし、それには劇的で即座の気候変動対策の加速が不可欠。」「まずは排出量削減。先進国は2040年に、そして新興国は支援を受けて2050年にできるだけ近い時期のネットゼロにコミットするよう、対策を加速していかなければならない。グリーンウォッシュはもう不要。これ以上の欺瞞はない。」「第二に、適応。全ての国は、灼熱や、致命的な洪水、嵐、干ばつ、猛火に対応し、これらから国民を守らなければならない。気候変動という大虐殺から何百万もの命を救うために、適応への投資を世界的に急増させる時である。」</p> <p>これが地球温暖化問題、気候変動問題に対する世界の認識。グリーンウォッシュというのは「この問題に対して上辺だけやったふりをする」と意味している。</p> <p>2018年に公開された国連IPCCの「1.5℃特別報告書」では、気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2030年までに世界全体のCO2排出量を約45%削減することが必要とされ、2050年には実質ゼロが必要とされた。グテーレス事務総長の発言では先進国は更に前倒しして2040年には実質ゼロを努力すべきとされた。</p>	無	—	—	—	貴重なご意見として参考とさせていただきます。
51	パブコメ	—	<p>温室効果ガス削減目標（2030年）</p> <p>この世界の認識に対して、日本政府では「46%削減。さらに50%の高みに向けて挑戦を続ける」と目標設定をした。千葉県は昨年3月「40%削減。更なる高みを目指す」とした。そんな中でこの計画の中での本市の温室効果ガス削減目標は結局千葉県と同様の「40%削減。更なる高みを目指す」となった。ゼロカーボンシティ宣言をしてから3年近く経ってのようやくの見直しだが、正直、世界の認識からしたら、これでも全く足りない目標である。まずはこの目標設定の引上げを検討して欲しい。せめて日本政府と同様の目標設定とするべき。</p>	無	—	—	—	今後の計画の進捗等を踏まえ、更なる高みに向けて取り組んで参りたいと考えます。

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
52	パブコメ	—	<p>最大限の再生可能エネルギーの導入という点で、本市で最も可能性があるのが太陽光発電。その点から「PPAやソーラーシェアリング」を推進するためのそれぞれの具体的な設置目標やアクションプランを設定すべき。また「ソーラーカーポート」の推進も非常に有効。施策として計上の上、具体的な設置目標やアクションプランを設定すべき。</p> <p>またその具体的な推進として、新市庁舎計画において、駐車場を最大限活用してソーラーカーポートの設置を検討して欲しい。500kwのソーラー設置で、現計画でもNearbyZEB市庁舎にできる。500kwの大規模ソーラー&NearbyZEB庁舎は全国みても一例もなく、日本No1のゼロカーボン庁舎にできると思う。これは環境施策としてだけでなく、補助金の積み増し、ランニングコストの縮減、庁舎の業務継続性の向上、シティプロモーションにも繋がる。検討して欲しい。</p>	無	—	—	—	<p>PPAやソーラーシェアリング、ソーラーカーポートの具体的な目標設定につきましては、今後の検討課題とさせていただきます。新庁舎につきましては、現在作成済の八千代市新庁舎等建設基本設計に基づき進めて参りたいと考えます。</p>
53	パブコメ	—	<p>本市が「2050年ゼロカーボンシティ」を本気で目指すには、繰返しとなるが、「市民・事業者・行政あらゆる主体を巻き込みながら、全ての主体で徹底した省エネ施策と、最大限の再生可能エネルギーの導入」が必要となる。まず率先して市が本気を見せるために、事務事業編に市としての明確な目標設定をし、本気度を示す必要があるのではないかと。それなくして市民や事業者を巻き込むことは難しいと思う。見直しをお願いしたい。</p>	無	—	—	—	<p>ご指摘の通り市が率先して取り組みやる気を見せることは重要と考えます。市民や事業者などに取り組みんでいただけるよう市も努力して参りたいと考えます。</p>
54	パブコメ	—	<p>「市民・事業者・行政あらゆる主体を巻き込みながら」本気で推進するためには、伝えた省エネ施策や再エネ導入施策の反映とともに、市民・事業者・行政が連携して対策を推進するための協議会などの取組みが必要。施策と目標設定をお願いしたい。</p>	無	—	—	—	<p>脱炭素への取組につきましては、市民、事業者との連携の必要性は重要であるとの認識しておりますが、協働体制の構築につきましては、先進市の事例を参考に検討してまいりたいと考えております。</p>
55	パブコメ	—	<p>庁内にゼロカーボンシティ施策を推進する専門部署を設定して、推進体制を構築して欲しい。そして各担当部局毎の施策と目標設定を実施して、その推進管理を実施する事務所掌を設定し、権限を持たせる必要があると思う。検討して欲しい。</p>	無	—	—	—	<p>令和6年4月にゼロカーボンシティ推進室を設置する予定となっております。計画の推進にあたってご意見を参考とさせていただきたいと考えます。</p>
56	パブコメ	—	<p>事務事業編策定も少なくとも審議会を経由して計画策定をするべき。事務事業編の見直しがこの期に及んで、2025年向けに行っているというのもありえない。2030年向けの計画見直しを実施して、きちんと施策と目標を設定して欲しい。</p>	無	—	—	—	<p>八千代市第3次環境保全計画（改訂版）（素案）に対するご意見でも（仮称）八千代市地域脱炭素ロードマップ（素案）に対するご意見でもないため、貴重なご意見として参考とさせていただきます。</p>

修正点一覧（ロードマップ）_パブリックコメント

No.	区分 ご意見のあった 会議体等	ご意見		ご意見への対応				備考
		計画書該当箇所（修正前計画）	意見	修正 有無	計画書該当箇所（修正後計画）		意見への対応 （修正無の場合はその理由）	
		該当記述			頁数	該当記述（修正後）		
57	パブコメ	—	市民や事業者を巻き込むために分かりやすい目標設定をするのはどうか。新川千本桜ECOライトアップを市として支援頂いているが、このようなECOイベントの実現というのは市民や事業者に対してとても分かりやすいメッセージとなる。市の3大祭りや花のお祭りやライトアップのECOイベント化、ECOライトアップ化を目標に掲げて推進して欲しい。 千本桜祭等で実現出来ており、実現する事業者や協力事業者もいるのだから、他のイベントでも実現できると思う。市のやる気次第。目標設定を検討して欲しい。	無	—	—	—	市民の意識啓発に向けた手段として有効な手段と考えられることから、今後の検討課題とさせていただきます。